

》商工会議所活用レシピ

FILE | 21

雇用の維持も企業の役割 地域の一員として活動していきたい

わが社は、関東自動車工業が岩手県に進出したことに伴い、平成4年に設立された自動車部品メーカーです。

「人財」という言葉があるように、企業にとって人は最大の経営資源です。しかし、リーマン・ショック後の不況は深刻で、当社も一時期は非常に厳しい経営を強いられました。人件費削減のために、リストラを断行する企業もありました。ただ、私たちは何としても雇用を守りたかったのです。

そんなとき、北上商工会議所が雇用調整助成金申請の相談を受け付けていることを知り、早速活用することにしました。おかげで、従業員を解雇せずに済んだのです。

ただ、われわれは、社内のことだけを考えてはいけません。

CSR（企業の社会的責任）の概念を持ち出すまでもなく、企業は地域社会の一員として、地域に貢献すべき存在なのです。そこで、

公共施設の清掃活動や、障害がある人の会社見学の受け入れなどに、これまで自主的に取り組んできました。

また、同所の中村好雄会頭が会長を務める「農薬工業クラブ」にも、継続的に参加しています。この地域は多くの企業が立地する一方、農業の盛んなまちという顔もあります。そこで、企業と農業従事者とが交流・協働、地域全体の活性化を図ろうとしているのです。

例えば、わが社の従業員は耕作放棄地を整備して、野菜の栽培に取り組んでいます。ただし、若くて元気で体力はあるものの、



株式会社ケー・アイ・ケー
代表取締役社長
土屋 文教 さん

農業に関する知識と経験がほとんどありません。そこで、地元の指導を受けながら、ダイコンやハクサイなどを一緒に育てています。収穫した野菜は社員食堂などで提供していますが、おいしいと好評です。

最後に、地元経済界では北上新貨物駅の設置を求めています。製造業の場合、製品が大型のことも多く、輸送しやすい立地かどうか業績にも大きな影響を与えます。また、利便性が向上すれば、今後、企業数が増え、行政などにもメリットがあると考えられます。そこで、こうした産業界の声を集約して、実現に向けた活動に取り組んでいるのが商工会議所。企業と地域社会との橋渡し役として、なくてはならない存在です。

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ

担当者からひと言



北上商工会議所(岩手県)
主任経営指導員
川口 実

北上商工会議所では、中小企業緊急雇用安定助成金制度の創設時に、いち早く講習会を開催。その結果、多くの地元企業がこの制度を活用しました。

ケー・アイ・ケーは、不況時にもかかわらず、雇用維持に努力されました。このことは、地域経済の基盤を安定化させるために、大きな意味を持つていたと思います。

また、農薬工業クラブにも参加し、市民との交流を率先して深めています。北上でこうした取り組みが進んでいることは、本当に喜ばしいことです。

現在、当所では新貨物駅の設置要望など、事業環境改善に向けて活動中。地元企業が元気になることで、地域全体を元気にしたいですね。